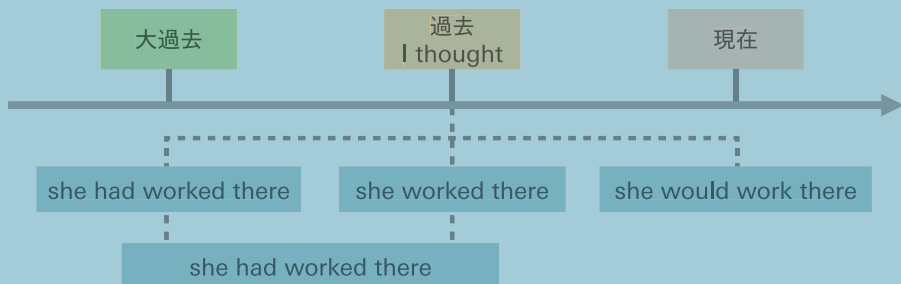


主節の動詞が過去形であるため、従属節の動詞の時制が、**5** 現在→過去、**6** 過去 / 現在完了→過去完了、**7** 未来→〈助動詞の過去形+動詞〉のように変化している。これを**時制の一致**と呼ぶ。



**【!】** **6**の *I thought that she had worked there.* については、時制の一致を受ける前の形として、過去形 (*she worked there*) と現在完了形 (*she has worked there*) の2つが考えられる。解釈上、どちらを意味するのかは文脈や状況による。

**7**のように、助動詞の現在形が時制の一致を受けると、それによって過去形になる。

**【例】** *can* → *could*, *may* → *might*, *shall* → *should*, *will* → *would*  
ただし、*should*, *ought to*, *had better*, *used to*などは、主節の動詞の時制によって影響を受けない。

**【!】** 「…しなければならない」という意味で *must* が使われているときは、主節の動詞が過去形で時制の一致を受ける場合に *had to* に置き換えることがある。

*I thought you **had to** visit him at his home.*

私は、あなたは彼の家を訪ねなければならないと思った。

**cf.** *I think you **must** visit him at his home.*

私は、あなたは彼の家を訪ねなければならないと思う。

ただし、「…に違いない」という推量の意味で *must* が使われている場合には、形の変化はない。

**cf.** *I thought that she **must** be a doctor.*

私は、彼女が医者には違いないと思った。

- { a. I'm not sure when I **can come** back.
- { b. I was not sure when I **could come** back.  
いつ帰れるのか、私には分からない [分からなかった]。
- { a. I can't tell which candidate **will win**.
- { b. I couldn't tell which candidate **would win**.  
どちらの候補が勝つのか、私には分からない [分からなかった]。
- { a. I think I **have seen** him at the station.
- { b. I thought I **had seen** him at the station.  
彼のことは駅で見かけたような気がします [気がしました]。
- { a. I don't know why you **didn't tell** me about that.
- { b. I didn't know why you **hadn't told** me about that.  
あなたがどうしてそのことについて話してくれなかったのか、私には分からない [分からなかった]。



### 質問箱

主節の動詞が未来を表す場合には「時制の一致」という現象は起こらないのでしょうか？

結論から言うと、主節の動詞が未来を表す場合には「時制の一致」というルールは適用されません。「時制の一致」が適用されるか否かを決定する基準は、「that 節内の内容が現在も通用するかどうか」、すなわち「今でもそう思っているのかどうか」、ということです。したがって、主節の動詞が未来を表す場合であっても、that 節内の内容は「現時点で行った予想・判断」、つまり「今思っていること」であることに変わりはないので、「時制の一致」を適用する必要はないのです。

- ① The shop is closed.                   ⇒ He will say that the shop is closed.
- ② The shop will be closed.           ⇒ He will say that the shop will be closed.
- ③ The shop was closed.               ⇒ He will say that the shop was closed.

《2》 現在も行われている習慣・事柄を表す場合は現在形 (9)

“some Japanese high schools have classes on Saturdays” を、現在も行われている習慣であると捉えている場合は現在形で示すことがある。過去形にしても間違いではない。

類例 An airport official told me that the gates **open** 30 minutes prior to the departure time.

空港職員は、ゲートが開くのは出発時刻の 30 分前だと私に言った。

【!】 主節動詞が現在完了形の場合は that 節中の動詞の時制は現在形と過去形のいずれも可能

Jessica **has said** that it **is** [was] her favorite.

ジェシカはそれがお気に入りだと言っていた。

[is は現在 , was ではある過去の時点に注目している]

## 4 主な伝達動詞

英語の伝達動詞は数多く存在するが、そのうち最も基本的な **say, tell, talk, speak** の 4 つの動詞の使い分けを整理しておこう。

### 1 say

16 He **said** hello. 彼はこんにちと言った。 512

17 He **said** (to me), "I'll see you tomorrow." 513  
彼は（私に）「また明日会いましょう」と言った。

18 The report **says that** three people died in the accident. 514  
事故で 3 人が亡くなったと記事は言っている。

### ● say O<sub>1</sub> 〈モノ・事〉 (to O<sub>2</sub> 〈人〉) / say (to O 〈人〉), "... 16 17

人の言葉をそのまま伝えることに焦点がある。発言そのものを目的語にとり、直接話法にすることもできる。聞き手を示したい場合、to 〈人〉で表されるが、省略されることもある。

### ● say (to 〈人〉) that S' V' ... 18

間接話法では発言内容を that 節で表すこともできる。コーパス say (to O) that ... のように、聞き手は to O で示すこともできるが、聞き手を明示したいときは tell O that ... の型の方が好まれる。

【!】 《くだけで》で say to do (…するように言う) という表現もある。

指示を与える相手が文脈から明らかな場合に用いられるが、**tell + 人 + to do** の方が普通。

John **said** not **to** worry. ジョンは心配しないようにと言った。



● **talk + business / sports / politics** 25

他動詞「…について話す」の用法では、目的語は business / sports / politics など分野を表す一部の名詞のみ。talk about ... の構文より習慣的で容易に予想ができる文脈で好まれる。〔about が入ると talk は自動詞になる〕

【!】 **talk to +人 / talk with +人**

- (1) to の方が優勢で、《英》では with は《かたく》響く。
- (2) to は比較的自由に日常的な場面で用いられるが、with は A が政治家・指導者・代表者などの場合に好まれる。

● **talk +人+ into / out of doing** 26

他動詞用法の talk は（…を説得して…させる / やめさせる）という意味（persuade）で使われることがある。

類例 I talked him out of quitting school.

私は彼を説得して退学を思いとどまらせた。